

**【VI問11 卒業後の進路についてどのように希望しているか】**

- ・ 自営（視覚障害、57歳）
- ・ 作業所に行く（重複障害、17歳）
- ・ 迷っている（聴覚障害、20歳）
- ・ わからない（発達障害、19歳）

**【VI問13 進路選択の際の悩み】**

- ・ 大学院に行こうと思っていたから→院はやめて就職（肢体不自由、39歳）
- ・ 不安定な職業なので、生活していけるかどうかわからないから（視覚障害、21歳）
- ・ 重度なので受入れてもらえないこと。（重複障害、20歳）
- ・ 肉体が全く動かないため。（重複障害、40歳）
- ・ 社会情勢（聴覚障害、20歳）

**【VI問14 進路選択にあたっての学校への要望】**

- ・ ナシ（肢体不自由、82歳）
- ・ 大学2年だからまだ先の話で4年になったら答えられると思う（発達障害、20歳）

**【VI問15 進路選択にあたって悩んでいない理由】**

- ・ ナシ（肢体不自由、82歳）

**【VI問16 進路先が決まったり、自分の適性が分かったきっかけ】**

- ・ ナシ（肢体不自由、82歳）
- ・ 自信がある（視覚障害、24歳）
- ・ 共に学んできた中で自分が希望し経験した事で変わってきた。（重複障害、20歳）
- ・ 野望があるから（精神障害、23歳）
- ・ 夢だったから（聴覚障害、19歳）

**6. 生涯学習**

**【自由記述】**

- ・ 仕事は、なんとか行っています。ずつうがあったりフラフラするけれども調子をととのえて作業所の仕事に行くと仲間、友達が沢山いるのしいです。2009年4月から介護の仕事にもどります。作業所ではりかひがあるが老人ホームでは、りかひがないです。とてもきびしいですがマイペースでがんばりたいと思います。家でたのしむ事がありますが、外では、あまりないです。1人だとでにくい。介助や仲間がいたら外に出れると思う。そういうきかひを作り人生たのしみたいと思います。（その他、30歳）
- ・ 学習の時間がなかなかまとまるとれない。（その他、46歳）
- ・ 自分に何が必要なのか、よくわからない。話を聞いたり、読む事はできても、頭に残る事が少ない（実践的な事や作業や対人関係や、将来もし仕事についたら必要な事等）。よく理解して作業につなげたり、忘れやすいから、それに備えたメモ等をまとめる事や見返す事を忘れ

たりする)。外見上、よく話を聞いている様でも、集中できない事が多い。生活に必要な事を体で覚える事が必要なのかと思う。が学習の準備をしてもらっても、的はずれな行動を取ってしまう。(と後で気付く。)(その他、49歳)

- ・この間、〇〇の方達の講演で、司会の方が勇気はもらえましたかと言って下さったので、このとしになって、希望と勇気を思い返し暮らして行こうかと思っています。(その他、72歳)
- ・障害者福祉センターで各カルチャー的な講座はあるが、遠方なので受講しにくいし、ヘルパーの数も足りない。(言語障害、38歳)
- ・養護学校の在学中に、パソコンスクールを体験しました。とても楽しかったみたいですが、特別な場合以外、受け入れが難しいところばかりです。医療的なケアが必要な事もあり、重症心身障害者の施設内で、学べる設備があればうれしいです。介助している親も一緒に学べれば、サポートできる事もあると思うので、介助者も一緒に育成して欲しい。(肢体不自由、18歳)
- ・保育園小中高と地域の学校で、みんなと一緒に学べてよかった。私は医療的ケアを必要としているが、小4までは親が付き添わないといけなかったり、看護師じゃないとだめと言われたので、そうではなく教師にもケアをしてもらいたかった。障害があるから、特別支援学校と決めるのではなく、みんな一緒に学ぶ方がいい。分けないでほしい。(肢体不自由、19歳)
- ・養護学校の先生方がボランティア活動として心理療育訓練を行ってくださっているが、スタッフが少ないために、月1回しか開催できず、療育の効果があまり大きく表われない。開催回数を増やしたいので、スタッフ参加者の増員を希望しています。(肢体不自由、19歳)
- ・計算(お金)漢字など生活に必要なことを少し勉強しなければと思っているみたいですが(肢体不自由、22歳)
- ・小学校から高校まで12年間親の付き添いがありました。嫌でした。(肢体不自由、23歳)
- ・代筆ですがアンケート用紙が届いたのは、3月12日(木)か3月13日(金)だったと思います。3月15日に到着は無理でしょうか?職場や作業所などでの活動での間であれば、我が子は該当しません。学習内容もどういったものが対象か、もひとつよくわかりません。たぶんこのアンケートに我が子は対象外だと思います。(肢体不自由、23歳)
- ・月に一回、親子と学校・施設関係者と体を楽しむ、コミュニケーションをとる学習会をひらいています。施設に世話になること=ゴールではなく、生きていく限りは、色々学びたいです。障害の有無に関係なく、人生を豊かにする、学ぶ気持ちのない人と、ある人では、生活の質が大きく変わる気がします。生活で精いっぱいという人が多いのも事実ですが、“学ぶ”楽しさを知る教育こそ大切だと思います。学校を離れてからの人生は長いのです。人と交わり介護され易い心を養えたらと思います。※本人は話すことができませんので母が代わりに書きました。(肢体不自由、24歳)
- ・もっといろいろな学習をしてみたいが移動手段がかぎられ費用的に続かないので、日数、回数を減らしているのでも、施設入所をしても、外出支援をつかえると、うれしい。(肢体不自由、24歳)
- ・公共機関を利用して行動出来る範囲が限られている事。又経済的負担等問題点がたくさんあります。(肢体不自由、26歳)
- ・困っている事・金額が高いので継続が大変。・部屋がせまいという事や他の学校には階段があったりとバリアが多い。改善して欲しい。過去の教育での不満・親の判断で養護学校等を決

められた。本当は普通学校や大学等へ行きたかった。(親の収入等の問題もあり大学へは行ける環境ではなかったのですが・・・)・養護学校で学ぶとやはり普通学校なみのレベルの教育をうけられないので学力が十分ではないと思う。インクルージブ教育が必要。(肢体不自由、26歳)

- ・特にないです (肢体不自由、26歳)
- ・大学院を卒業して以来、就職活動をしています。自宅で過ごす日々が続いています。自宅を出て活動できる場所を求めています。地域の学校を卒業して一人暮らしをし、かつ大学院まで修了した現在、自分自身によりみがきをかけ、障害のある人たちと一緒に体験を語れる、また勉強等を通じ、講師派ケンができるようなグループを作っていきたいと思っています。(肢体不自由、27歳)
- ・陶芸教室に行っているのですがどうしても介助が必要である。3～4年続けたので気の合った介助者(指導者)自分の事を理解して下さる方々に御世話になって居ります。遅れて申し訳ありません、宜しく御願い致します。(肢体不自由、28歳)
- ・指導者不足で障害者に対する理解がなすすぎます。勉学、学習することばかり社会的自立が出来ない以上学習する以前の問題で話にならない。前に教わったことも一応義務教育で籍をおいてもらったということだけです。教育者の知識不足もっと勉強してほしい。(肢体不自由、29歳)
- ・講座、イベントも良いが、身体のリハビリ等にもヘルパーを使えるようになってほしい。(肢体不自由、30歳)
- ・仕事をみつけて、自立したいと思っているが、むずかしい。ハローワークに相談したりしている。地元で生きて行きたいと思っています。(肢体不自由、30歳)
- ・障がいがあるからといって就労→限られた内容の仕事(工場での単純作業や農業等)という考え方で支援はおかしい。一般の人と同じでもっと多種類の仕事(賃金を得る手段)へのサポートをしてほしい(例えば劇団ダンス集団バンド活動絵画展)それらの活動をプロとして通じるよう練習できる場のサポートをして社会の人々に料金を払って見に来てもらえるように育てる。障がいがあっても文化芸術活動や手工芸などもっと長い目で見た工賃アップサポート体制をしてほしい。目先のことばかりや指導員や支援者に方向性を決められるような本人活動はやってもおもしろくない。代筆(植村)(肢体不自由、30歳)
- ・(代筆)卒業して13年程になりますが在学中卒業後の進路に向けて、施設及作業等での仕事に対する適応訓練的な時間を取り入れてほしかった。あわてて、間際にしても余り意味がなく、せめて中学入学頃から始めてほしいです。普通校との交流教育が少なかった。(肢体不自由、31歳)
- ・自分のやりたいことに向けて努力したい(肢体不自由、31歳)
- ・バンドのグループを作り約10年間活動してきたが、メンバーが他界し、又、身体的にも無理である。このメンバーに対する指導は、病院の看護師が中心となり、実施された。充実した時間であったと思う。(肢体不自由、32歳)
- ・義務教育以外で、養護学校の高等部となると、どうしてもカリキュラムの内容が落ちてしまうので、学びたい人にとっては、能力を發揮する機会が少なくなりがちだと感じた。高等教育で、就労支援を行うのであれば、一定のレベルを保った学力を教えることに、重点を置いた方が良い。(肢体不自由、32歳)

- ・高校まで普通学校に通っていたが、ノートを書くなどのスピードについていけなかった。また教室移動は負担を大きかった。(肢体不自由、33歳)
- ・私は脳性マヒの障害で小、中、高と普通校に行きました。普通校に行けて普通の子供達と交流できてよかったです。一緒に毎日学ぶ事は大事だと思います。毎日一緒にいる事で友達と色々な経験ができてよかったです。ようご学校に行ったら普通の子と交流できなかつたし、勉強できなかつたと思います。字が読める事、書ける事、計算ができる事は大人になってから社会生活を営むうえでとても大切だと思います。ようご学校に行つた私の知人の障害者の人達は計算もできずとても困つてます。障害者みんなが普通校に行けたらいいと思います。(肢体不自由、33歳)
- ・わたしは、小学校から高校まで地域の普通学校に通い、障害を持たない同級生とともに、遊んだり、山登りやスキーなど、いろいろな経験をして楽しい学校生活を送ることが出来た。わたしは障害のある子どもが、支援学校ではなく、地域の普通学校の普通学級において必要な支援を受けながら、障害のない子どもたちとともに、学ぶことが障害を持つ子供が、地域に生きることに於いて、一番重要だと考えているので、国においてもこれからこの考えを基本として、障害児教育を押し進めてほしいと、考えています。(肢体不自由、34歳)
- ・知的に重度の障害がある人にとって、個人生活、家庭生活、社会生活を行っている時、何がバリアであるか、感じることは困難です。共に生活をしている家庭が主にバリアを感じ、改善して欲しいと願っているのです。ノーマライゼーション(障害のある人もない人も共に仲よく生きていける社会)をめざしながら、今もなお、特別支援学校、学級において、障害がある人たちだけを集めて、教育がおこなわれているのは、理解できません。子どもたちは、模倣していくことによって多くのことを学びます、学び合います。保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校とも、ノーマライゼーションであるべきです。(肢体不自由、35歳)
- ・中学校の時職業訓練の一かんとしてパソコンを習っていたことがある。(肢体不自由、36歳)
- ・人的支援がないと何をしてもしにくい状況にある。・施設入所中の場合ガイドヘルパー等が使えないため(肢体不自由、39歳)
- ・車で通学している為飲みをさそわれても、飲めない(笑) 学習で困るかどうかについては、自分の努力である程度カバーしなければならないと思う。それを補うための支援システムであつて、一から依存するためのものではないが依存しつぱなしの人もいるのが困るところ、そういう障害者が周りにいると同一視されてしまうのには腹が立つた。プライベートでは、やっぱり車イスだと行ける所、遊びに行ける所が限定されてしまい、友人の誘いをことわつたりしなければならず、また皆と一緒に騒いでいても、体調管理のことで、一足先に帰らなければならなかつたりで、そういうのが切ないかなー。いくらシステムがよくても、切ない思い出となる。(肢体不自由、39歳)
- ・小学生の時普通校に通つていていじめを受け長期の不登校をした。その時勉強しなかつたことが大人になって困ることになっている。(肢体不自由、40歳)
- ・大学卒業後に、コンピュータ講座を受講し、情報処理2種の国家試験に合格したことで、その後の道が開られる切っ掛けとなりました。(肢体不自由、41歳)
- ・現在も医療施設でOT、PTを受けています。※障害者施策総合調査とありますが、現教育に関わる問題点についての設問が大部分だと思つました。過去不十分ながらの教育等を受けた

者に対する配慮は必要なかったのでしょうか。この内容でしたら年齢等を考慮して依頼していただくと良かったと思います。充分なご協力が出来なくてすみません。(肢体不自由、42歳)

- ・地域の学校に行きたかった。(肢体不自由、42歳)
- ・月～金まで施設活動をして過ごしておりますので、土・日は休養をとる日としておりますが親の会事業開催の折には参加するように努めております。宿泊訓練、クリスマス会、福祉作品展、おひさまといっしょに、新年会等です。また個人でも社会参加のため親と一緒に車で全国を旅して楽しんでおります。外国にも行って来ましたが、両親も高令となり余り無理は出来なくなりました。(肢体不自由、44歳)
- ・〇〇県に大学が少ない。障害者が一人で大学に通える方法をどこへきけばいいかわからない。障害者を受け入れてくれる大学はどこかがリクルートではわからない(肢体不自由、44歳)
- ・〇〇通信高校講座を過去に受けたことがあります。1ヵ月に1月〇〇園に行かなくてはならなくて、施設設備が整ってなく車イスではきびしく途中で挫折した。(肢体不自由、47歳)
- ・特になし。3/15日に届いたので遅くなりました。(肢体不自由、47歳)
- ・もっと高度な勉強をしたい・ふつう学級にいきたかった。(肢体不自由、50歳)
- ・資料やテキストがパソコンで入手できたら情報を得られるが、通常の資料は読みづらい。(肢体不自由、50歳)
- ・過去短大の食物学科入学、卒業(だが、障害を理由に実習をさせてもらえず、栄養士の免許が取れなかった。(肢体不自由、53歳)
- ・身体の調子が悪い時に、通信のめ切にせまられどうしても、なおざりになってしまう。無理をすれば、益々身体の調子が悪くなってしまいます。会社からの指示でやっているのだから、かなり強制され身体も悪くなった。それでも会社は休めなく、今大変苦しい。ここ数ヶ月は徹夜で勉強している。(肢体不自由、55歳)
- ・学習場所へ行く時の公共施設の不備。私の時代としては、良い教育を受けられたと思います(肢体不自由、56歳)
- ・特になし(肢体不自由、56歳)
- ・50年前の私は知的、身体も一緒の、そして、ふつうの健康な人たちも一緒の小、中学生活でした。不便な事も、多々あり、親も私もたいへんな思いで毎日学校へ通いました。今でいう所のいじめもありました、が、その度に自分が強くなり、どうしても普通の人になりたいという思いでがんばり、58才の今、社会の中で普通に生かされて、おり合わせです。1人1人のニーズにあった学習も、もちろん必要ですが社会、世の中にでてからは、すべての人と付き合っていく上では決して、別々の教育が良いとは言えないと思っています。みんなちがってみんないいのですから。(肢体不自由、58歳)
- ・仕事のかたわら、福祉オンブズマン活動をさせてもらっています。通所更生施設と入所身体障害者療護施設の2ヵ所に行っています。ゆくゆくは、福祉オンブズマンが必要なくなり、本人や家族と施設が話し合っ、住みよい場所の構築が、なされるようになることを夢みています。(肢体不自由、60歳)
- ・自分で自由に動くことができたら…と思います(肢体不自由、60歳)
- ・62才で放送大学に学んでいますが、聞とりが悪いので教科書をただひたすら読み、試験にのぞんでいますが、きびしい面があります。字まくつきがたくさんあると良いです。(肢体不自由)

由、62歳)

- ・がんばって普通教育を受けてきたが、いつも余分な努力を強いられてきて疲れた。しかし広くいろんな友だちができてよかった。(肢体不自由、62歳)
- ・このアンケートは私には非該当で申し訳ない(肢体不自由、62歳)
- ・私は運よく小学校から高校まで普通校で学びました。できるならば障害を持つ子であっても普通校で皆と一緒に学んでほしいと願っている。(肢体不自由、62歳)
- ・人生は生涯学習だと思います。車椅子生活で出来るボランティアを目指して、地域リーダー研修等の学習をしています。定年退職後の再教育の学習の場があって良いと思います。(肢体不自由、63歳)
- ・特になし(肢体不自由、63歳)
- ・イス運びなどがあり少し体に負担があるが、歩行できているのでなかなか他人にたのめない。いつも苦痛に思う。(肢体不自由、64歳)
- ・10年前退職して1年過ぎボランティアでもと思い市役とふくし館に行った事がありました。話しをして帰りましたが御返事がなく私には出来ないのかと思いました。その後油絵教室にかよいました。家の都合でこれもやめました。そして昨年頃この会に入会いたしましたが、少しは皆様に協力する様がんばりたいと思っております。(肢体不自由、71歳)
- ・老人には該当する問題がない、一体この調査は何のために行うのか、回答するのに困る(肢体不自由、72歳)
- ・特にありません。(肢体不自由、73歳)
- ・私は、養護学校(特別支援学校)等を卒業した人や在学中の人に関わっています。又、その学校の先生や、教育大学が障害児教育について学んでいる人たちとも少しですが関わっています。このアンケートを記入はじめましたが、該当してないことに気づき、中止しました。そこで少し教育について日頃思っている事を書きます。育つ段階の人への教育には大きな問題があると思っています。それは、教師の障害観というか哲学というか人間に対する価値観がなっていないことです。「障害」の捉え方が全くもって「福祉」の世界の理念と違っていることです。「障害」の概念も全く先生達・教育・学校の中に認識がなく、「障害」を否定した環境の中で成長せざるを得ないものがあります。物理的な問題より、もっと大きいと思います。文科省への働きかけが重要と思います。〇〇(肢体不自由)
- ・視覚障害者を受け入れてくれる生涯学習の場や、情報が少ない。(視覚障害、22歳)
- ・教科書・参考資料等の情報保障(視覚障害、31歳)
- ・科目最終試験を、点字受験であれば県外の本学まで受験に行かないといけない。補助具を使って普通文字の受験であれば地元で試験が実施されるときに受験できる。現在は地元で試験が実施されるときに普通文字で受験しているが、今後視力低下が進んでいった場合のことを考えると不安がある。スクーリング等では授業を受ける際、弱視者へたいへん配慮いただいている。(視覚障害、38歳)
- ・特別支援学校の教員の仕事における更なる専門性を望む。(視覚障害、38歳)
- ・会場への移動、配布資料の内容把握、板書の個説明などに困っています。経済的不満にも。(視覚障害、53歳)
- ・とても満足している(現在)・昔はボランティアが少なかったのもっと多くいれば、苦ろうは少なかった。おおいにこまった。(点訳・朗読ボランティア)現在はボランティアがふえ

- ているのでよいと思う。(視覚障害、55歳)
- ・生活の時間にゆとりができたなら、自分にあった学習活動をゆったりと続けていきたい。(視覚障害、67歳)
  - ・学習してみたいことは、たくさんあるけれども、ほとんどの場合資料が全て墨字であり、それが学習の場では読めないこと、また、点訳するとすれば、必ず、人の手を借りなければならないことなど、文字を読むことについての配慮が、ほとんど、なされていないことが不満である。(視覚障害、73歳)
  - ・弱視(0.2~0.05)だったが無理をして普通教育で大学まで卒業できたおかげで、現在の生涯学習もスムーズに享受できている。ノーマライゼーション確立のためにも障害者と健常者が共生できる学習を行なうべきであると思う。本調査は現状に沿った形であったが、経験・体験から生まれる意見が反映される調査も必要なのではあるまいか…。ここまで。(視覚障害、73歳)
  - ・特学(中学)時代、みんなと同じでなければいけなかった、体罰も受けたが対応が悪く先生自身の勉強不足があると思った。精神的にダメージを受けても何もフォローがなかった。思い出したくもない中学時代になってます。(重複障害、19歳)
  - ・学籍(大学生として)があり学びたい、学ぶ事に工夫してほしい。重度の障害があるが、私なりに学べることもあり、他者(健常者)にも時間を同じにする様で伝えられることがある。あたり前に居る事で伝え伝えられる事がたくさんあると思う。インクルーシブ社会となつてほしい。チャンスを与えられる事で大きく成長する経験できない社会がおかしい、どんなに重度でも地域であたり前に生きたい、生命の重さは一緒である。人として生きたい!人のもつ可能性を拡げてほしい(重複障害、20歳)
  - ・年令が進んでも、知的に重い障がいがあると、小さい時の療育が、また役立つこともある。又、大人になると余暇活動の意味も大きく、本人が楽しく、そして、いろいろな人が、かわってくれる場が一つでもふえるといいと思う。障がいのある人の要望をできるだけきき入れて、楽しくできることが、一番ですね!(重複障害、20歳)
  - ・本人が興味をもつ内容のものが無いので余暇に何かさせようと思っても何もない(メニューが少ししかない)また参加に親がついていけないといけないので負担が大きい。(重複障害、20歳)
  - ・母子通園、単独通園を経過して、小1-小4まで通園施設の中の派遣学級に通いその後養護学校に移りました。卒業の時あと2~4年くらい何か学ばせてやりたいと思いましたが、重度のため行く所は、生活介護と、市のデイサービス身体の作業所に2回づつ通っています。生活介護では入浴をしてもらうのがとても助かっています。今の体の状況を保たせるためにリハビリはかかせません。親が車で連れて行ってます。(重複障害、22歳)
  - ・障がい者だから教育がいらぬのではなく障がい者だからこそ色々な教育が必要だと思います。出来るだけたくさんの事を経験し自分の好きな物を学ぶ事が出来ればいいと思います。(重複障害、25歳)
  - ・重症児に学習はなじまない。(重複障害、26歳)
  - ・ピアノの先生になりたいです。音楽大学を目探していきたいです。そしてたくさんの子供たちに音楽を教えていきたいです。(重複障害、27歳)
  - ・養護学校へ小学部4年生~高等部3年生卒業するまで、12年間在学し、療育訓練をはじめ、

基礎学力の向上に努めていただいた。高等部卒業後、もっと勉強したいという者も多くいるが、現状では外出等に労力を要するし、難しい。卒業後、自分が求める生活、何をしたいか…選択する上にも基礎学力は大切と考えている。学校で教わったパソコン等大いに活用し生活に生かしている。(重複障害、27歳)

- ・できることやったら今からでも夜間高校に通いたいです。(重複障害、28歳)
- ・僕は、現〇〇県手をつなぐ育成会において(活動)昨年度に僕が提案でもちかけて会の中で取り組んだ「裁判員制度」について今後(来年度以降)も知りたい事が分からない事がまだ多いのでこの事は、勉強して行きたいです。(重複障害、29歳)
- ・今は、仕事をパートの形でもっていますが、あいまをぬってはいった、中▲のほうの、仲間たちには、互いに、よくしてもらって、うれしいです。(いろんな行事にしても)21才で、始めた、水泳にしても、中▲から、別の障がい、地いき一般に、輪が、広がっていきました。「楽しむ、元気に、打ちこむ」というのが、まわりに、いきわたったのでは、ないか、と、思います。今後も、楽しんでいきたいです。以上、今の〇〇のようすでした。▲=知的発達障がい。(重複障害、30歳)
- ・幼ない頃から学習というのでしょうか訓練は(S.T、P.T、O.T)はずっとしていただいていた。在学中は学習的なものも受けましたが、卒業してからは、在学中の様な細やかな指導は難かしくなりました。今は、生活介護の通所施設、重心併設のA型通園で楽しく過ごさせていただいています。ただ親も高齢になりました。入所施設は遠くにしかなく地域に重度の医療の必要な子供達の昼・夜の生活の場を切望しています。(重複障害、31歳)
- ・重症心身障害者のため二次障害のためのリハビリや、ガン等の検査の方に注意したい。また音楽が好きなので音楽会的なものに連れて行きたい。(重複障害、33歳)
- ・以前、大学で情報保障を受けたが、手話通訳者が派遣される時と、学生ボランティアが派遣される時があり、ばらつきがある。教育面においてはきちんとした制度を確立し、手話通訳と要約筆記の二重情報保障がなされるよう望む。(学生ボランティアは「アルバイト」という意識が強く、プロ意識が未だ育っていない為、授業中に自分の番でない時は居眠りしたりメールしたりするなど、「仕事」という意識が欠けている。情報保障を受ける側としても集中できない)(重複障害、34歳)
- ・重度の障がいのある人が、地域で生涯にわたり、学習や活動を続けるメニューや支援がない。作業所や施設での活動のみになってしまう、重度の障がいのある人向けのメニューを増してほしい。(重複障害、34歳)
- ・〇〇県が主催した〇〇さんの「〇〇塾」に参加して視野が広がった。学校卒業後に参加したが、一般教養が身についた。その時知り合った塾生(一般の方)といまだに十年近く交流しており、出会いとしてもいいきっかけになった。(重複障害、35歳)
- ・休み時間に有効的に利用し、学習の機会を与えるべき。(重複障害、35歳)
- ・ナシ(重複障害、36歳)
- ・昔の特別支援学校は、機能回復させること優先的だったから、あんまり勉強らしい勉強はしてなかった。ゆっくりやっていたという記憶がある。おかげで、僕は、今でも読めない漢字がある。もうちょっと自分でもききながら勉強したのだけれどなかなか覚えにくい。(学校卒業後)高校に入り直して少しでも勉強したいと思う。友達もつくって、勉強して大学に入りたい。今、〇〇は定時制高校がどんどん潰されて単位制高校に移行しようとしているが、単



位制高校は健常者すら入りにくくなっていて、○障の普通高進学のみまたげとなっている。  
(重複障害、36歳)

- ・現在当事者回復者クラブから発展した NPO 法人で事務局長として働いています。大変やりがいのある仕事で仕事を覚えるのもするのも楽しく大変充実しています。これからこの NPO 法人がどんどん大きくなり世の中のためになる事を目指しています。仕事はやっぱりしながら覚えるのが良いと実感しています。(重複障害、37歳)
- ・20代頃のワープロをもう一度最初からやってみたい(重複障害、39歳)
- ・私は脳性マヒによる四肢痙性マヒの重度重複障害者であり、全面介助でコミュニケーションが不得意なのでこの調査対象者としては不適格ですので残念ですが悪しからずよろしくお願いいたします。(重複障害、40歳)
- ・当事者団体の代表であり、同じ疾患の患児の進学相談にも乗っており、全ての事柄について、回答させて頂きました。まず専門の病院や、医師が、地域に居なく、情報があっても近辺のものは無い。自分らしい生活をしようと思えば、大変な労力を必要とする。都会に出た方が、自立生活をしやすいと思われる。都市部と地方では大きな格差が存在する。(重複障害、40歳)
- ・医療の講習会など専門用語がたくさん出るような講座には OPH やパワーポイントなど文字による情報保障がない場合が多いのでつけてほしい・要約筆記者(専門分野での知識をもつ方)を養成し仕事として安心して要約筆記ができるような給与などを国の責任で保障してほしい・中途失聴者はきこえていた期間があるので小さい頃からの難聴者やろう者とはちがった困難さやニーズもある。十分にしらべて対応してほしい(重複障害、42歳)
- ・試験場バリアフリーがまだ充実していない所がある。最近では気象予報士(重複障害、46歳)
- ・教材等含めて経費。単身のための生活維持との両立の負担。(重複障害、59歳)
- ・右腕(手首)切断した後、身障者職業訓練校を卒業した後地域の身障者の人達との交流の中でスポーツに触れソフトボール、やり投げ、100m 競争などを楽しんだ思い出がある。懐かしい大切な思い出になっている。(重複障害、61歳)
- ・聴覚障がい配慮のない中で生活してきたため自分と同じ苦勞をせずに済む社会を望んで手話や要約筆記、補聴システムなど学習し、広げる活動を中心にしてきました。パソコン等について高令難聴者はついてゆけない、個人レッスンになってしまう。本人だけの努力ではどうにもならないと諦めてきたが、今は随分よくなっていて羨ましいこともある。IT 機器を利用しての視覚的支援が期待される。(重複障害、68歳)
- ・福祉に関連した講演会や研修会などに参加し情報を得ることにしている。(重複障害、72歳)
- ・てんかんのリハビリテーションを30年間続いています。「社会性を育てる」(人格障害)には専門家の指導が必要です。今年は「集中力を育てる」を進めています。学校教育は昭30年〇〇大教育学部を病気と闘いながら卒業、平成6年小企業を35年間働き続けて現在年金生活。てんかんのリハビリの専門先生を各地にお願いします。(重複障害、76歳)
- ・絵画やイラストレーションの講座などを行っている作業所があるので、その講座を受けたい。(精神障害、27歳)
- ・体力と精神力を作業所でつけ、いずれお金を貯めて保育の勉強をしたいと思っています。(精神障害、29歳)
- ・病気になる以前より、覚える力が劣った。資格を取るために、試験を受けたり、勉強したり

- した。けんじょう者の学校を卒業した。薬をのみながら学校に通うのが大変だった（精神障害、30歳）
- ・小学校からずっといじめを受けてきた。先生もさべつした。マンガ家になりたい、はたらきたい。（精神障害、31歳）
  - ・過去に受けた教育、養成について・社会の中で一定の割合の人が障害を持って暮らすことになるという現実について何も教わらなかった・教育の中で障害について言及が乏しいことが、多くの人々の無理解や誤解を招いていると感じる・知的障害、精神障害について、学校教育の中でもっと教えていくべきだと思う・支援職養成の際に、「援助してやっている」という勘違いをさせないよう、基本姿勢を指導してほしい・ボランティア養成を行政が主導する際には、ふさわしい講師を招いて欲しい（誤解を助長させるような講師は論外だと思う）（精神障害、33歳）
  - ・自分で本を読んだり、編み物したり、筋トレしたり、ストレッチしたり、ジャグリングしたりして充実しています（精神障害、33歳）
  - ・講座〔料理教室など〕を増してほしいです。（精神障害、35歳）
  - ・独学では良く分からないので困っている。絵の学校に行っていたがつかれてきたのでやめた。（精神障害、37歳）
  - ・医学部に入学して5年生までやっていた。医師国家試験を受ける前に、病気（アルコール依存症、薬物依存症、摂食障害）3つで中退。もう一度、やり直したい（知識だけは豊富）（精神障害、38歳）
  - ・自己の能力、向上アップ、する事で、自分に不足な部分を補う。精神に対する、アンケート内容がなさすぎる（3障害一律というのにこの事で、もう差をつけている）障害者別々のアンケートを取るべき（精神障害、38歳）
  - ・当事者が気がむいた時、集まれる場所、施設が欲しいと思っております。（そこに行ったから必ず作業とかしなければならぬというプレッシャーを感じなくて済み、当事者同志がコミュニケーションがとれればよいと思います）・家族が毎日当事者を抱えこむ生活をしておりますが当事者が体調をくずした時、家族がほとんど疲れてしまい、そんな時、ショートステイみたいなかけこみ寺的な場所が欲しいと切に思います。家族も高年令になってきておりますので切に希望します。（精神障害、41歳）
  - ・なし（精神障害、41歳）
  - ・1. 病名は、てんかんですが、小学校、中学校、高校（定時制）共、普通学校でした。しかし、先生をはじめ、周囲はてんかんについて、知識がない。少なくとも、先生には、てんかんについての教育が必要だ、と思います。2. 学校教育に於いて、教科書の副読本を（てんかんに関しての）早く発行すべきです。（精神障害、42歳）
  - ・私自身の学校が工業高校なので、工科系の大学しか頭はなかったが、今思えば薬学、看護系の方へ行けばよかったと思う。親もあまりその点あまり配慮がなかったと思う。（精神障害、42歳）
  - ・海技学校に行ったが、資格を取れなかった。勉強しなかったから。もともと勉強が好きでない。仕事はまじめにやったが、うまく人つきあいができず、ストレスがたまった。ストレスをやり過ごせないで、発病。ストレスと仲良くできない。（精神障害、43歳）
  - ・地方の国立大学を8年かけて卒業した。それから卒業してから16年になるが、過去の先生が

たと、賀状のやりとりをしてる。心理カウンセラーなどには本当に感しゃしている。(精神障害、44歳)

- ・当事者の活動情報をたくさん知りたい。資金がない。(精神障害、45歳)
- ・精神障害についての教育がなされていないことから、差別や偏見があると思う。誰にでも起こることであるのに、身近な人、家族に患者が出て情報もなく、困まったという話をよく聞く。義務教育の時点での教育が必要だと思う。(心のバリアフリーのために) 障害者は教育を受けるにしても、生活保障などで所得がない場合が多く、学びたくとも生活をするのがせいっぱい…学費免除や、補助があれば、様々な資格取得も出来て、就労の機会も増すと思われる。私は民間の事業でピアヘルパー講座を受講し、ピアヘルパーを経て、現在、3ヶ所で相談員、退員促進事業の地域執行担当員と施設の職員をさせて頂いています。機会があれば無理なく働ける可能性のある方は沢山おられるはずです。(精神障害、49歳)
- ・(代筆) 精神障害者の者には余り当てはまるアンケートではないと思います。就学時は発病して居りません。(精神障害、50歳)
- ・私は19才で国立大学入学したが、大学は余りに理想とかけはなれていて、一浪していたので余計に理想が高かったので、特にクラスの同級生たちが皆、馬鹿の様にふるまっていて、つきつめて追求すると、「出るクギは打たれる」式で不愉快で仕方なく、孤独であった。教育学部学科の美術科であったが、その頃から大学社会に適応する力を失っていた様に思う。周りの人と「同じ様に」していれば単位もとれて友人もできて、文句なしだったのであろうが、私は異常な迄の「個性化」の過程をたどったので(統合失調症)、今は静ひつな目でその頃の抑圧的な同級生もながめられるし、自分が勉強したいのであるから〜と割り切って、カリキュラムもこなせる様な気がする。一口に「大学」といっても、それは「これである」と言えない、何か存在の得体の知れないものであって、余程自分のわきまえをしっかりと持っていないと「大学」に潰されてしまう。(精神障害、50歳)
- ・てんかんですが学校の時、仲間にされなかった。(精神障害、51歳)
- ・今回の調査について、嬉しく思っています。それは、私達、障がい者について「私達のことを抜きに私達のことを決めないで」ほしいからです。私達は、スタッフのいない当事者の会です。精神の病を抱えた者達だけで運営を維持していくことは本当に大変です。でも、発足(2001年より)当初から、「学ぶ」ことを柱において、毎年講演会を行ってきましたし、講師を引き受けて下さった方々のご厚意で謝礼もなしに講演をしていただきました。また、無料の講演会に参加させて頂いていただきました。学ぶことにより、得ることはとても大きいです。また、私、個人は、北海道委託の事業〜地域生活移行支援事業のピア・サポーターを約2年半させて頂いていただいたことで、研修を重ねさせて頂き、生きる意欲・仲間やスタッフの方との信頼関係・長期入院されていた方の潜在的な能力・可能性など、学ぶことができました。困っていることは、スタッフ・当事者が、長時間ボランティア・持ち出しなどで、熱心な人ほど、身を削る日々で学習に取り組んでいることを理解していただきたいのです。(精神障害、51歳)
- ・(代わり記入) このアンケートは精神障害の者には当て当てはまるものはありません。義務教育の時は発病しておりませんし年令的に年が上っています(精神障害、55歳)
- ・なし(精神障害、56歳)
- ・大学時代に発病したせいかもしれませんが、大学の勉強を覚えるだけでなく考えてみる時間

があればよかったと思っています。時間をかけて考えながら覚えていきたくったと思っています。(精神障害、59歳)

- ・写真仲間に入って年2回てらん会に出しています(精神障害、62歳)
  - ・就職について、精神障害者に対する偏見があるので困っている(知的障害、11歳)
  - ・休日のすごし方がもっと楽しいものになる様、機会をふやしてほしいです。公的な行事(市報など)による障がい者むけの催しがあればいいと思います。よく、キッズの料理教室や、野外活動など、知的障がい者むけにして、スタッフを公的で専門の方々の主催でやってほしいです。(知的障害、18歳)
  - ・自分自身で就職先をさがすことで、就活の大変さや働くことの大変さが、じっかんするからです。(知的障害、19歳)
  - ・漢字の勉強をがんばりたい。(知的障害、20歳)
  - ・漢字や人の名前などがよくわからないので教えてくれる所があれば勉強したい。(知的障害、21歳)
  - ・ボランティアが少ないので、家庭以外でも終始親が付き添っていて、自分の自由意志が尊重され辛い面がある(知的障害、22歳)
  - ・一般の人の公民館における講座や教室はあるが障がい者の為の教室は無い。絵画や書道教室、スポーツなど保護者や本人達も希望していると思う。今は親同志の情報交換で絵画、書道など個人的に学習に行っている。1ヶ月に2回位程度で、行ける場があれば良いと思う。今は、デイサービスでスポーツをする位(知的障害、22歳)
  - ・地域の図書館は小学生の時代から利用しており、借りた本を題材に絵を書いたり、趣味のスポーツ観戦のため、ルールを覚えようと資料にしている。・青年教室にも参加してみたが、どうしても見た目、重度の人の利用が多く、活動内容にもの足りなさを感じている。・私鉄各社企画による駅からのウォーキング、ハイキングなど、家族と共に参加し、楽しく汗を流す体験もしている。・青年教室などで、学習会(クレジットなど)の様な企画もしてほしい。(知的障害、23歳)
  - ・繰り返し行なって習得出来る物があります。その理解者が増える事を願います。(知的障害、24歳)
  - ・特になし(知的障害、24歳)
  - ・アートの体験学習。障害者青年講座(短大内にて)(知的障害、25歳)
  - ・学校の先生とうまくいかなかった。意見があわなかった。(知的障害、28歳)
- ※過去パソコン等を習ったり、あまり行かなかったんですが、英語も習いました。ビジネスマナーについては前の会社で多少教わっていたのですが、ビジネスマナーはどこで習えばよいのでしょうか?疑問です。(知的障害、29歳)
- ・重度でも、養護学校高等部に進学することができて、集団の中で生活のスキルを向上することができました。青春だったと思います。希望するすべての障害児に高等教育を受ける機会を与えて欲しいです。(知的障害、30歳)
  - ・〇〇大学で知的障害を対照にふれあい大学が開催されました。4年間平均月2回学校に行き、現役の大学生と一緒にいろんな事を学びました。もう卒業してしまったのですが、こんな機会を回数、時間ももっともふやして欲しいと思います(知的障害、30歳)
  - ・重複障害のため、小、中高校では、学べない、又学校で学習して来た事が、続けなければ忘

れてしまう。卒業しても、少しでも学習でき、コミュニケーションがだいぶとれるようになった。もっと勉強して、色々な事を伝えたい。(知的障害、31歳)

- ・特にありません (知的障害、31歳)
- ・◎社会で起るさまざまな問題について、講演会があると参加している。特に沖縄の問題に関しては熱心である。沖縄の人々の“生かされている”立場と、〇〇にて知的障がい者として生きる生活。社会の反応が同じように思えるようである。お互いに理解しようとする思いが必要であると指適する。◎写真機に興味が高まっている為、教室に通いたがっているが、読み書きの問題で悩んでいる。◎スポーツジムには17年間通っている。障がいのあることを話し、指導をたのんだ為スムーズに通えている。母代筆。(知的障害、32歳)
- ・特に困っていることはないです。養護学校高等部のときに電卓が使えるようになって良かった (知的障害、33歳)
- ・自分自身でわからない事などをみんなで話し合いなどをして学習をしてまた支援の人達にも自分が分からない事があれば、わかりやすくせつめいをしてくれるので良いと思います。そして、自分のためになるからです。(知的障害、36歳)
- ・本人活動、音楽療法 (知的障害、36歳)
- ・特になし (知的障害、40歳)
- ・県の育成会 (本人活動) や地区育成会の本人活動に参加していますが、会員がもっと増えて欲しいです。障害者に対する勉強会や意見交換会を聞いてどんどん交流をやって欲しいと思います。(知的障害、41歳)
- ・市委託の青年学級に入っているが委託料を増額し、活動を週1ぐらいに要望したい。(知的障害、43歳)
- ・特になし (知的障害、43歳)
- ・特になし。(知的障害、43歳)
- ・日常生活実態についてきめ細く調査を行ってほしい。(知的障害、43歳)
- ・本人活動に、保護者会は、不要だと思います・本人活動が尊重されていない。・地域の社協が、本人活動を理解していない。(知的障害、44歳)
- ・現在清掃会社に (半日勤務) 就職していますがこの就労の継続に大変不安を感じています。(知的障害、45歳)
- ・だれでも、どんなに重くても、自由にまなべること。(知的障害、60歳)
- ・作業所の仕事がついと腰痛になる。テレビをみるのが大好き (特に芸術関係) でかなり世間のことは知っている。小学校3年頃自転車に乗れなかったが運動場で練習、就職して役にたった。(知的障害、60歳)
- ・大学、大学院では情報保障があったが、通信制のスクーリングでは情報保障はないので、個人で自費負担しなければならないのが負担である。(聴覚障害、26歳)
- ・過去に受けた教育については、まず情報保障がなく、忘れ物 (というより持参物のお知らせをきくことができなかったから) したり、テストの成績が悪かったり (独学したために良い成績をとった聴覚障害者は多くいるが、本当の意味で授業・講義を受けていなかった) 悔しい思いをしている。現在は、介助員 (通訳) がいるようで良くなっていると思うが、聴障児の介助員の中には聴障者もあり、十分に情報が保障されているのか疑問だ。耳がきこえない親の子育てサークルは支援もなく通訳料や保育料で参加費が高い。障害者基礎年金 (働いて

いる聴障者が多いし給与も十分にもらっている人もいる)の見直しをした上で、コミュニケーション支援費を上げたりどこでも十分に情報保障されてる社会にしてほしい。(聴覚障害、32歳)

- ・消極的な回答で終わってしまいました。小、中は、国語、算数(小)、英語(中)はことばの教室で先生と1対1で学習、その他は普通クラスで皆と一っしょに勉強、といういわゆる通級制という形で、教育を受けました。一般の子どもたちと関わったことで、友達もたくさんでき、『聴こえにくい』という障害を子どもたち全体で理解し、受け入れていくことができた気がします。私も、ずい分助けてもらいました。むしろ、子どもの方が障害のある、なし関係なく、自然な形でつき合えるのではと思います。子どもの内にそうした経験が、大人になり社会に出ていき、実際に障害のある方々と向き合った時、違和感は少なくすむのでは(違いを意識せずに、ということです)ないでしょうか?「特別支援教育」が云われていますが、当事者のニーズに合わせた教育に固定してしまわず、もっと集団(社会)を大切にしたい教育を求めます。先生一人ががんばるのではなく、子どもたちみんなが、『先生』になってあげられたらいいのです。(聴覚障害、39歳)
- ・卒業後の元先生が手話通訳してくれているので助かっている。(聴覚障害、42歳)
- ・小学校から大学まで、聴覚障害者にとっては、大変苦痛であった。その場で学んでいるはずなのに、学ぶことが出来ない、挙手、発言、考えることが出来ない(参加できない)ことは、我慢の時だった。進歩しているかといえば、全く進歩していない。特に聾学校へ行かない普通校で学ぶ児童、生徒の配慮は、昔も今も全くない。非常に悔しく、残念なこと。教育委員会、文部省のお考えをききたい。(聴覚障害、49歳)
- ・要約筆記者の養成と手話通訳者と同じレベルの通訳として実施してほしい。国レベルのカリキュラムや、認定の内容を早急に煮つめてほしい。難聴者の権利擁護と、ろう者のものと差があってはならないと考えている。(聴覚障害、49歳)
- ・聴覚障害があっても普通の人と同じように自分の興味を持ったことを学習したい。でもそのためには音声言語を文字情報にかえてもらわなければ内容が理解できない。世の中のほとんどの教育が音声言語のみで行なわれているのが非常に残念!だからせめて公的な機関が開催する行事(講座など)に聴覚障害者が参加を希望した時はいつでも手話通訳者や要約筆記者を派遣して欲しい。・また私の場合ループ(磁気)が有効なのでループ席を作って欲しい。・自分は既に終了してしまっているが教育を受けている聴覚障害学生にも、きこえる人と同じは無理でも文字情報により学校へ行く意味があるようにしてあげて欲しい。私の時は何の配慮もなく教科書から自分が学ぶしかなかった。(聴覚障害、50歳)
- ・8年前から、メニエール病で、耳がきこえなくなってきた。3年前から、両耳、かなり悪くなり、仕事もむずかしくなった。補聴器もあまり役に立たない。会話に困っている。手帳はまだもらえない。手話を学ぼうとしても、聞こえなくて困っていたら、「難聴者の為の手話教室」が岡山にあることを知り、本当にありがたかった。磁気ループや要約筆記者のおかげで安心して学べる、心の支えになっている。公民館や大学の講座もきいてみたいが、みんなと話ができないので苦しい。時にめまいもするので、仕事ができず困る。要約筆記や、手話通訳が広まってほしい。障がい認定のデシベルを下げてほしい。50db以上は生活に困る、世帯主だったら大変なことだ。(聴覚障害、50歳)
- ・私は○+者ですが、義務教育である、小学、中学、高校は一般の学校で学びました。だけど、

- 先生の話とか説明は、ほとんど記憶にありません。聞こえなかったのであまり楽しくなかった学校生活でした。情報保障として、ノートテイクなど導入を望みます。(聴覚障害、51歳)
- ・要約筆記を行っているが、ボランティアのレベルがまちまちなのは仕方ないことだけでも内容が正しく書けずちがう話にしてしまう。それを言うに「書いてやっているのに」となる。手が折れる程書いてくれてもデタラメでは意味がない。また、書いてくれても読解力がない同障者が多い。引きこもり無気力、無関心からテレビ、新聞も読まぬケースが多いので読んでも意味が取れないので。意識を双方が改めて学習するにはどうすれば…と悩む。自分の学生時代は軽度の難聴をいかに笑ってバカにしてやるか…とゲームのようにされた。教師、教官らも同じく、障害者はバカにするのが当然で不当なあつかいは山のように受けた。目の前で返事をしているのに全部欠席にしたり、答えは合っているのにとことん赤点を付けて担当教授がとうとう抗議を申し入れてくれたりしたことも。(聴覚障害、51歳)
  - ・手話通訳者が少ないため情報の保障がかぎられているのが悲しい。いつでもどこでも、手話通訳者がいたり、耳の不自由な人に対する配慮があれば、助かると思う(聴覚障害、53歳)
  - ・現在、要約筆記の派遣制度はあるものの、通訳としてのレベルが、まだまだで、地域で開かれる講座を申しこんでも、十分に楽しめ、知的高揚を得られるまでの通訳を受けられるか疑問で、受けるのをためらってしまう。それよりも、自分で本を読んだ方がましかなーとも。過去に受けた教育機関では“自分でがんばれ”でしかなく、教師の話は分からず、板書とテキスト、ノート、参考書だけがたよりの自学自習に近い状態だった。が、普通校に通い続けた。大学まで行ったが、今でもそれがトータルしてよかったかどうか迷っている。(聴覚障害、55歳)
  - ・聴覚障害者自らの講座等に、情報、教議ともとなる話に手話はわからない為ノートテイクやOHPを利用した要約筆記を利用しています。書いている内容が話の筋があわず、意味がつかめない。キチンとした内容を理解するにも、通訳となる方々が未熟なのか、講師の話が早いのか、さっぱりです。その為、真の教育を受けることか不可能に近いです。(聴覚障害、55歳)
  - ・自分が小学、中学、高校、専門学校で受けていた当時は、情報保障が何もなかったもので、一人で勉強するしかなくて、教育は十分とは言えなかったが、友人や親のおかげでひと通りの基礎学習を修得することができました。現在、ノートテイクなど情報保障が進んでいる環境の中で、自分の意思、意志、意見を表示する可能性を自分なりに伸ばしてほしいと思います。(自主性を伸ばす) まだ、情報保障が十分でないところはたくさんあります。学生、一般問わずいつでもどこでも情報保障が得て学べる場を増やしてほしい。(聴覚障害、56歳)
  - ・現在、聴覚障害で加歳になり、補聴器も不能になった場合講座とか病院等への要約筆記者の要請をお願いしたいが、〇〇県では、手話通訳士の派遣依頼は可能であるが難聴者に対する公的派遣事業がない。離島とかこれから、中高年が増加するなかで要約筆記者の講座が必要でないかと思います。私は聞こえないまま健聴者の中で勉強して来た。だから苦勞に耐えなかったです。(聴覚障害、57歳)
  - ・中学校時代、難聴者はろう学校へ行くように言われたが普通学校の方がいいから拒否した。どの学校へ行くかは本人が決めれば良いと思う。・高校も普通高校へ行きたかったが、経済的理由と、配慮がないから断念。必要な教育は独学で学んだ。資格も国家資格を含め10取得した。・学歴が全てではないと思う。学習はいろんな選択肢があつて良い。(聴覚障害、59歳)